



## 3さいSくんのママ

### 発達についての気付き

Sの発達に不安を感じたのは、Sが1歳半の頃です。当時は意味のある発語がないほか、目を合わせない、指差しをしない、呼びかけに反応しない等、月齢相応の行動がとれない状態でした。当時の私は、夫の留学のため家族でアメリカに住んでおり、インターネットで子供の発達について検索しては、不安で塞ぎ込んでいました。

幸いその州では、週2回、発達支援の専門家の訪問セラピーを受けることができ、4か月後の1歳10ヶ月には、初語も出るようになりましたが、その翌月には夫の留学が終了し、日本に帰国することとなりました。

### 帰国後の状況

私は、帰国後も、Sにアメリカ同様のセラピーを受けさせたいと思い、様々な施設や病院を周り、勉強会や講演会などにも参加しましたが、なかなか見つかりませんでした。

Sも、言葉こそ増えていましたが、言いたいことを一方的に言うだけで、質問や応答はできず、アイコンタクトも未だ不十分で、コミュニケーション感・つながり感を得にくい状態でした。また、同年代との関わりが不自然で、公園などでも他の子に関わろうとせず、近づかれると硬直していました。

このままで良いのだろうか、成長と共にいつか変わるのだろうか、焦り悩んでいたころ、ようやく日本の専門医の診察を受けることができ、その先生の紹介により、「もうひとつのおうち」に辿り着きました。Sが2歳3ヶ月の頃でした。

### りさせんせいの印象

りさせんせいは、アメリカの大学で心理学を専攻されていたとのことで、Sへの話しかけ方、気の引き方などがアメリカの専門家とよく似ており、Sはすぐにせんせいに興味を持ちました。

また、せんせいは、Sと会って数分後には、私達が不安に思っていたSのコミュニケーション力の弱さに気づかれ、さらには、プライドが高く慎重であることなど、私達が意識していなかったSの性格についても指摘されました。

私は、帰国後、Sのために色々な方を訪ねましたが、このせんせいは他のせんせいと違う、と直感しました。当時の私は復職も考えていましたが、ぜひせんせいにSをお願いしたいと強く思い、早期の復職は断念し、週3回、埼玉県北から片道約2時間をかけて「もうひとつのおうち」に通うこととしました。

### プレスクールの様子

Sは年度途中の10月に通い始めたため、当初は、1つ年上の子のプレスクールに入りましたが、プレスクールでの子供達の生活は、本当に驚きでした。朝教室に入ると、1人で着替えて荷物を整理し、朝の会では、お山座りをして静かにせんせいの話を聞





き、1人ずつ前に出てせんせいからのインタビューに答えます。おむつを履いている子はおらず、ほとんどせんせいの介助なくトイレを済ませます。鬼ゴッコや椅子とりゲームなどルールのある遊びをしたり、自転車に乗ったりもします。お弁当も、1人で支度をして他の子の準備ができるまで待ち、一斉に食べ始め、食べ終わると1人でお片付けをします。就園前の子供達が、規律の取れた自立的な行動を、戸惑うことなくスムーズにできていたのです。

## Sの発達の様子

Sは、プレスクールに入って直後は、顔が常に強ばっていて、すぐに硬直したり泣いたりしていましたが、次第に周りの子に刺激を受けながら、他の子と同様に自立的な行動ができるようになっていきました。特に、1つ上の子達が3月に卒業し、同学年や下の学年の子達が入園してきてからは、「今度は自分が新しい子達のお兄さんになろう」と思ったのか、他の子を気遣ったり、手伝ってあげたりと、他の子達と積極的に関わるようになりました。

今のSは、「もうひとつのおうち」に通い始めて1年になりますが、1年前と劇的に変わりました。表情豊かで笑顔も増え、ひょうきんな子になりました。一方通行のようだった言葉は、きちんとキャッチボールができるようになり、目もじっと見つめてくれるようになりました。大好きなお友達が何人もでき、せんせいの介入なしに会話をしたり、ふざけあったりし、家でもお友達のことを楽しそうに話してくれます。

## 親へのサポート等

また、Sだけでなく私自身も、精神的な面で助けられました。その日のプレスクールでの様子や課題は、ウェブサイトを通じて詳しく共有いただけます。発達面での相談には、せんせい方がいつも親身になって対応してくださり、週1回の個別レッスンでも、成長とともに現れる様々な困りごとに細やかに対応してくださりました。

また、私はそれまで、Sの発達や将来への不安から、外出を避け、同年代の子のママとの交流を避けがちでしたが、「もうひとつのおうち」に子供を通わせる同じような悩みを持ったママとは、気軽に子供のことを相談したり話し合ったりでき、ようやくママ友との交流が楽しいと思えるようになりました。

## おわりに

「もうひとつのおうち」に通っていなければ、Sにこれほどの成長はなかったと思います。私達も、Sの将来に希望が持てるようになり、Sの行動のことを笑って話し合えるようになりました。Sと私達を救ってくれた「もうひとつのおうち」に、心から感謝しています。

